

Title	言語文化学 Vol.19 編集後記
Author(s)	渡邊, 伸治
Citation	大阪大学言語文化学. 19 p.156-p.156
Issue Date	2010-03-31
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77816
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

編集後記

『言語文化学』第19号をお届けいたします。論文32編・図書紹介1編の応募があり、そのうち提出されたのは、論文21編・図書紹介1編、厳正な審査の結果、論文10編・図書紹介1編を採択することとなりました。論文・図書紹介の査読をお引き受けいただいた先生方にはこの場をお借りしてお礼申し上げます。

また、研究発表会として、35回大会（6月27日）、36回大会（10月22日）を開催しました。36回大会は昨年に引き続き言語社会学会との共同開催で行ない、言語社会学会からは5名、言語文化学会からは3名の発表者があり、活発な議論が交わされました。

学会運営に関しては、8人の教員委員（石川先生、井元先生、岩根先生、齊藤先生、水野先生、村上スミス先生、ヨコタ村上先生、渡邊（五十音順））、5人の学生委員（岡あゆみさん、大平幸さん、韓喜善さん、李曉倩さん、李佩容さん（五十音順））、事務補佐をお願いしている中井啓子さんが担当しました。皆さん、ご協力いただき誠にありがとうございました。特に、助教の石川先生には、事務局として会計・名簿管理・大会準備・学会誌編集など数多くの運営業務をてきぱきとこなしていただきました。その有能ぶりには何度も驚かされました。今年度の学会運営がこれだけ円滑にいったのは、石川先生の頑張りによるところが大変大きかったと思います。また、今年から、以前、大学院資料室にいらした中井啓子さんに事務補佐というかたちで不定期に来ていただくことになりました。強い味方が一人増え、大変うれしく思っております。

これまでの言語文化学会の運営に携わった方々にも感謝申し上げたいと思います。過去の委員会の書類、データを見ますと、学会運営を合理化、効率化すべく、いろいろと努力されている様がよくわかりました。昨年度も、岩根先生率いる委員会によって、事務補佐員の採用、論文チェックシートの導入などいくつかの大変貴重なヴァージョンアップがおこなわれました。今年も、わずかですが、運営上のいくつかの小さな改善をおこなっております。

委員長といたしましては、ここまで漕ぎ着ければ安心して次期委員会にバトンを渡せると思っています。皆さん、ご協力ありがとうございました。

2010年2月

大阪大学言語文化学会委員長 渡邊伸治